



自然が先生! 森のようちえん

森の中を探検中

「森のようちえん」は、デンマークの一人のお母さんの「子どもたちに自然と触れ合う機会を与え、自然の中でのびのびと遊ばせたい」という想いからはじまりました。その想いは日本各地にも広がっています。

「森のようちえん 虹の森」もその一つ。泉ヶ岳や七北田公園を中心に活動していましたが、多賀城・塩釜・利府などからも参加者が多かったため、多賀城跡や県民の森でも実施することになりました。

季節や天気によって表情を変え、思い通りにいかない自然の中で遊ぶことで、子どもたちに自分で考え決めていく力が身につきます。その中で大人の役割は「見守る」「待つ」こと。子どもたち自身が森の中で遊びやドキドキワクワクを見つけていくことで豊かな感性が育ちます。



森のようちえん 虹の森

電話：022-343-6442 FAX：022-343-6712
E-mail：nijinomori@kurikomans.com HP：http://kurikomans.com/nijinomori/
Facebook：【森のようちえん 虹の森】 twitter：@nijinomori



木登りに挑戦



みんなで落ち葉遊び♪

活動の

ご案内

森のママ café

公園をおさんぽしながら、子育て、普段の生活について、ゆっくりおしゃべりしませんか？

こどもだけ！
森のようちえん

こどもたちだけで、一日森へ！その日の天候や仲間と相談して、遊びを決めます。
※詳細は「森のようちえん 虹の森」までご確認ください。

参加者からの声

- ・自然は五感をフルに使って学べる絶好の場所だと感じた
- ・おもちゃがないので自分で遊びを見つける力が引き出せる
- ・親も普段とちがう環境でリフレッシュできる



ヒント from “たがさぼPress”

たがさぼのブログから地域づくりに役立つ記事をご紹介します

詳しくはブログへ <http://blog.canpan.info/tagasapo/>

● ちょっと先のまちの姿を想像する 2014年4月3日(木)掲載
2、3年後を想像することで「今、そして次に何をすべきか」が見えてきます。将来の予測をまとめた「未来年表」のぞいてみませんか？

● ボランティアの探し方 2014年4月17日(木)掲載
「ボランティアをしてみたい！でもどんな活動があるの？」という方に、ボランティアに関する窓口やウェブサイトをご紹介します。

● 普段の暮らしの中で「なんとかしたい！」
と思うことはありませんか？ 2014年5月12日(月)掲載
リニューアル記念イベントのゲスト 鈴木菜央さんが代表を務めるNPO法人グリーンズ。活動が動画で分かりやすく紹介されています。

“たがさぼPress”とは？

たがさぼスタッフによるブログ。興味が湧いたらたがさぼPressへ！*ケータイ、スマホからもご覧いただけます。



たがさぼからのお知らせ

たがさぼが企画する「一歩ふみだすきっかけ」をご紹介します



たねまく

地域をつくる“17”のエピソード

昨年6月でたがさぼは5周年を迎えました。そこで、これまで私たちが出会い、ともにまちを元気にするために歩んできた方々のお話を一冊にまとめました。想いは地域をつくる“たね”のようなもの。想いを育てていくためのヒントが詰まった冊子です。「たねまく」は、たがさぼや市内の公共施設で配布しています。ぜひ手にとってみてください。

● ブログにも掲載しました。
「多賀城のまちを元気にする17の活動」
2014年5月13日(火)



オールカラー
26ページ!



リニューアル記念イベント パネルディスカッション

“やってみたい!”から はじめる地域づくり

6月1日(日)に開催された、たがさぽリニューアル記念イベント「みんなのアイデアでまちのワクワクをつくろう」。多賀城市内外で活躍する5名の方をゲストに迎え「今、このまちに必要なこと、そして、明日からできること」をテーマに地域づくりについて考えました。

やってみたい気持ちが大事

鈴木: 自分の思う気持ちにふたをせず、本当は何かやりたいのか自分自身に聞いてみる。好きなこと、楽しいことが地域づくりにもつながっていいと思います。

石井: 僕もよく自分の心に聞いています。こうして出た気持ちを誰かにつぶやいたり、受け止めてもらえる場があるといいのではないのでしょうか。

吉田: 想いを伝えることを遠慮している人や「やってみたいけどできない」と感じている人が多いのではないかと思います。そういう人をいかに巻き込むかが課題で、「やってみていいですよ」という場をつくる必要があります。

佐々木: 「ちいさいうち」は絵本が好きで家庭文庫をひらきたいという想いからはじまりました。「地域のため」というよりは、私の家で近所の子もたちが絵本に触れて、大人になった時に自分に戻れる一冊を見つけれれば私自身も幸せだな、と考えていました。その結果として地域やそこに住む子どもたちのためになるかな、と思っています。

身近な地域づくりの場“町内会”

柴田: 町内会には、少子高齢化や役員の担い手不足などの問題があります。住みやすい地域をつくるには町内会が必要だと思いますが、このままでは衰退してしまいます。住民へのアンケートでは、「町内会は必要」「町内会に関心がある」という人が多い一方で、「役員にはなりたくない」という声もありました。町内

家庭文庫「ちいさいうち」佐々木優美さん(多賀城市)
絵本が好きで、退職後、収集していた絵本を生かして自宅で家庭文庫をひらいた。

史都多賀城万葉まつり実行委員会／市民劇団ボトフ 吉田忠彦さん(多賀城市)
多賀城のお祭りや劇団・合唱団などさまざまな文化・まちづくりの活動に取り組む。

認定NPO法人市民セクターよこはま理事 石井大朗さん(横浜市)
住民自身が地域をつくるための学び場「よこはま地域づくり学校」などを実施。

ベガルタ仙台 ベガッ太さん(仙台市)
サッカーと地域を愛するベガッ太さんが多賀城の応援に駆けつけた!

NPO法人グリーンズ代表理事 鈴木菜央さん(東京都)
「ほしい未来」をつくるためのヒントを発信するウェブマガジンなどを発行。

志引町内会長 柴田十一夫さん(多賀城市)
町内会長と観光ボランティアガイドを務め、多賀城の地域と観光を支える。



会においても「自分も何かやってみたい」という人を活動の中にどのように取り込んでいくかが重要だと思います。

吉田: 声を上げても何も変わらないという認識があるのではないのでしょうか。やりたいこと・ワクワクすることができる、と分かれば若い人をはじめとしたさまざまな方が参加したくなると思います。

佐々木: 働いていた時は、休日という自分や家族のために時間を使っていました。先頭に立って何かをするというよりも自分の出来る範囲で手伝うというのであればみなさんも参加できるのかな、と思います。

鈴木: 町内会でできることを若い世代も含めてみんなで話すことができ、そこで出たアイデアが少しでも実現すれば、「町内会でこんなこともできるのか」となるのではないのでしょうか。若者たちが企画を立て、上の世代が全力でバックアップするとかそういう仕組みがあったらおもしろそうです。

石井: たとえば地区の集会所が役員会だけでなく「何かやってみよう」という人が気軽に話し合える場として開かれることで、その中でつながりができ、地域の課題が明らかになったり活性化したりしていきそうですね。



地域づくりと聞くと難しそうに感じますが、自分の好きなことや興味のあることから始めてみると良いかもしれません。「やってみよう」という想いを気軽に話し合えていっしょに取り組める、そんな場が必要です。たがさぽも暮らしやすい地域をつくるための一つの場としてこれからもあります。

What's
tag

「tag」には、多賀城 (tagajo) の頭3文字、みんながタグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ (価値) をつける、という意味が込められています。



「たがさぽ」ではツイッターもやっています。フォローお願いします!
@tagasapo



「たがさぽ」ホームページはこちら
<http://www.tagasapo.org/>